

VI

生涯學習

# 1 就学前教育と保育の充実

総合戦略



まち



ひと



しごと

SDGs



## 現状と課題

認定こども園、幼稚園、保育園では、「保育所保育指針【※21】」などに示されている小学校就学時までに育んで欲しい姿や能力を身につけるための取り組みを行っています。また、幼児期の教育・保育と学校教育との接続が円滑に行えるよう、保育・教育の各現場において、情報交換会議の定期開催により共通理解を図るとともに、各園でこどもたちが健やかに成長できるよう、質の高い教育・保育の環境整備に努めています。

また、国際化する社会に対応できる人材を育成するため、幼児期からの英語教育充実を目的に英語教育推進事業を開始し、保育施設や児童館にA L T【※22】などを配置し、英語にふれる機会を提供しています。

働きながら子育てをする家庭の増加に伴い、多様化するニーズに対応するため、町立保育園では体調不良児対応型の病児保育事業を開始するとともに、休日保育事業などの特別保育事業や、小学校などを活用した小学生の朝の居場所づくりの検討を進め、子育て家庭への支援を充実させる必要があります。

## 施策の基本方針

すべてのこどもが安心して学び成長できる環境を保障するために、認定こども園や幼稚園、保育園との連携を強化しながら、保育の充実を図ります。また、就学前教育・保育と学校教育との円滑な接続を図ることで、こどもたちへの教育を切れ目なく支援していくとともに、働く保護者の支援として、学童保育においては今後の利用拡大にも対応できるよう、学校の余裕教室の活用など、柔軟な運営体制を整備します。また、すべての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルに合わせて支援を行う、こども誰でも通園制度を実施していきます。

## 主な取り組み内容

- 保育サービスの充実
- 児童館・学童保育の充実
- 保護者が安心して働ける保育環境の整備
- 認定こども園、幼稚園、保育園、小学校、児童館による情報交換の推進
- 認定こども園、幼稚園、保育園への支援

※21 保育所保育指針…保育所における保育の内容やこれに関連する運営などについて、国が定めている指針です。

※22 A L T…英語を母語とする外国語指導助手を指します。

## K G I（重要目標達成指標）

	2024 年度 基準値	2029 年度 目標値
就学前教育と保育について満足している人の割合	40.5%	42.6%

## K P I（重要業績評価指標）

	2024 年度 基準値	2029 年度 目標値
英語教育推進事業における未就園児の親子参加組数（開催 1 回あたり）	5 組	6 組
学童保育児童数	688 人	701 人
認定こども園、幼稚園、保育園、児童館、小学校情報交換会議の回数	3 回	3 回

## 2 教育環境の充実

総合戦略



まち



ひと



しごと

SDGs



### 現状と課題

急速に進むデジタル化の中で、基礎的な学力だけでなく、変化に柔軟に対応する力や、人間としての豊かさを育むことが求められています。

そのため、教育現場の質の向上を目指し、各校の課題に応じた教職員向け研修や、学校全体のICT活用体制の整備・強化に取り組んでいます。

児童生徒への支援体制については、教育支援センター（あゆみ教室）のほか、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー【※23】、ヤングケアラーコーディネーター【※24】を配置し、組織的な不登校対応体制を整備するとともに、PTA組織などと連携した学校と家庭との情報共有、地域ボランティアによる教育活動への支援を継続的に行っています。さらに、外国籍児童生徒への対応としてプレスクールを平日は毎日開設し、編入生やその保護者へのきめ細かな支援を行っています。

これまでと同様に学力向上や心身の健康に向けた取り組みを継続する必要がある一方で、近年の物価高騰による経済的な困難を抱える家庭への学習支援体制の強化が課題となっています。また、外国籍児童生徒の増加に対応した言語・生活支援のさらなる拡充も必要です。

学校は、こどもたちの学びの場であることから、施設の適正な管理に努めるとともに、中学校の屋内体育施設への空調設備設置や防犯カメラの増設、警備員による巡回警備を実施するなど、安全面を最優先として取り組んでいます。引き続き老朽化している施設への対応や酷暑対策などに取り組む必要があります。

### 施策の基本方針

経済状況や国籍にかかわらず、すべてのこどもが安心して学べる教育環境の整備を推進します。ICT環境や教育支援体制を一層強化するとともに、社会の変化に対応できる教職員や支援人材の指導力を養うための研修等を実施します。また、教育支援センター（あゆみ教室）における不登校のこどもたちを含めたすべてのこどもたちの学びを保障することで、こどもたちの学力の底上げと学習意欲の向上を図っていきます。特に、外国籍児童生徒に対しては、多言語対応の拡充や日本語指導により、学校生活への適応を支援していきます。

学校施設については、財政負担の平準化を図りながら、老朽化している施設の長寿命化に向けて大規模改修もしくは部分改修を行うとともに、小学校の屋内体育施設への空調設備の設置について検討を進めるなど、教育環境の維持管理に努めます。

### 主な取り組み内容

- 教職員の資質・能力を高める研修や学校訪問指導の実施による児童生徒の学力向上
- ICTを効果的に活用した授業の推進
- 学校施設・設備の計画的な整備
- 給食費無償化による子育て世帯の経済的負担軽減及び食に関する指導の充実
- 教育支援センター（あゆみ教室）等による居場所づくりと不登校児童生徒及び保護者への支援の充実
- いじめ防止活動の充実
- 日本語指導や学校生活への適応指導など、外国籍のこどもたちに対する支援体制の整備・充実

※23 スクールソーシャルワーカー…児童・生徒が抱えている問題に対して、保護者や関係機関と連携しながら解決に向けた支援を行う福祉の専門職のことをいいます。

※24 ヤングケアラーコーディネーター…ヤングケアラーとは、大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っているこどもや若者のことをいいます。ヤングケアラーコーディネーターは、ヤングケアラーが直面している課題を理解し支援する専門職のことをいいます。

## KGI（重要目標達成指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
教育環境について満足している人の割合	38.4%	43.4%

## KPI（重要業績評価指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
標準学力テストの検査結果について、全国平均を100とした指数により比較した数値	-4.65ポイント	0ポイント
全国学力・学習状況調査結果で「学校に行くのは楽しい」と答えた割合	81.8%	86.5%
教員のICT活用指導力チェックリストで「授業にICTを活用して指導する能力」をできると回答した教員の割合	79.7%	82.2%

## 3 生涯学習の推進

総合戦略



まち



ひと



しごと

SDGs



4



17

### 現状と課題

生涯学習の推進については、町民一人ひとりのニーズやライフステージに応じた内容や地域課題を題材とした多様な講座を開催し学習意欲に応える機会を提供しており、親子で参加する子育て世代向けの講座や、自身の健康維持や生きがいづくりをテーマとした高齢者向けの講座などを開催しています。

また、近年では参集対面型の講座だけではなく、動画配信の手法も取り入れています。

町公民館においてはサークルや各種団体と連携し、それぞれが学んだ知識や技能を生かせる機会の提供に努めており、地域の活動拠点である地域公民館に対しては、活動への助言や各種補助事業により活動を積極的に支援しているほか、図書館においては、指定管理者と連携し、効率的で効果的な運営や適切な維持管理に努めています。

町民が生涯を通じて自主的に学習し、生活を豊かにすることを支援していくためには、町民のニーズの多様化や学習方法の変化に対応した講座設計が求められています。

### 施策の基本方針

町民が生涯を通じて主体的に学び、自らの成長や学習意欲の向上、ひいては地域社会への貢献につなげていけるよう、多様化するニーズやライフステージ、地域課題に応じた講座の企画・開催をしていきます。また、主体的な学習活動の継続を支えられるような活動支援や SNS などをはじめとした積極的な情報提供を進めていきます。特に、町民同士の交流や学びの成果を共有できる機会を設けることで、学びの連鎖と地域のつながりや、各種団体・サークル及び地域活動における次世代の担い手の発掘・育成に努めていきます。

公民館については、生涯学習の拠点として、サークルや各種団体の支援や講座内容の充実を図るほか、安全・安心に利用できるように施設の整備や維持管理に努めます。

また、図書館については、指定管理者と連携し、効率的で効果的な管理運営を行うとともに、「第2次大泉町立図書館ビジョン」に基づき、町民や地域に役立つ学びの拠点としての機能を充実させていきます。

### 主な取り組み内容

- 町民の学習意欲に応える幅広い分野での講座の開催、機会の拡充
- 各種団体・サークル及び地域活動における指導者の育成・活用
- 指定管理者による効率的で効果的な図書館の管理・運営
- 生涯学習講座の情報提供

## KGI（重要目標達成指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
各種生涯学習事業の参加者アンケートの満足度	93.1%	100.0%

## KPI（重要業績評価指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
各種生涯学習講座の定員に対する参加率	77.5%	80.5%
各種生涯学習事業の開催における公民館を利用するサークル・団体とのタイアップ数	6回	8回
図書館における図書資料及び視聴覚資料の貸出点数	140,163点	144,000点

## 4 青少年育成の推進

総合戦略



SDGs



### 現状と課題

青少年の健全育成の推進にあつては、家庭や学校・地域・関係機関の連携を軸に、様々な体験や交流の機会を設けていくことが重要です。小学生を対象とした「放課後子ども教室」では、地域住民と協力しながら多様な体験活動を通じた異世代交流や、中高生による「ジュニアリーダー」の活動を通じて、自らがイベントを企画・運営し開催する機会を提供しています。

さらに、インターネットやSNSの適正利用に関する啓発では、県が推進するセーフネット標語「おぜのかみさま」を活用した啓発グッズの作成・配布により、こどもにもわかりやすい形で安全な利用を呼びかけています。

青少年を取り巻く環境が急速に変化する中、地域とのつながりを強化する機会の提供、青少年が参加しやすい魅力的な講座など、体験活動や交流活動の機会を一層充実させることが求められます。また、SNS上のリスクなどから青少年を守るためには、青少年自身とその周囲の大人に対して、変化に即した情報の提供や継続的な啓発活動が必要です。

### 施策の基本方針

青少年が健やかに成長できる環境を整備するため、家庭・学校・地域・関係機関や各種団体との連携強化の機会の提供や、パトロール活動を行うとともに、「放課後子ども教室」など青少年の体験活動や交流活動の機会を広げるほか、こどもたちと多様な世代との関わりを促進する機会を提供していきます。

また、SNSなどの適正利用については、青少年自身とその周囲の大人に向けて、時代に即したリスクへの対応方法を含む啓発活動を展開します。加えて、青少年健全育成講演会の開催や情報共有の体制整備により、地域ぐるみでこどもたちの成長を支えていきます。

### 主な取り組み内容

- 各種団体・機関との青少年に対する情報共有や連携の充実
- SNSを含むインターネットの適正利用についての周知啓発
- 青少年を取り巻く環境の変化に対応した啓発や講座の開催
- 青少年の様々な体験活動や交流活動の充実
- 青少年健全育成活動の担い手の育成・確保

### KGI（重要目標達成指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
青少年育成の推進が図れていると感じている人の割合	—	39.8%

### KPI（重要業績評価指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
大人を対象とした青少年健全育成講演会の定員に対する参加率	76.3%	80.0%
放課後子ども教室の登録者数	117名	120名
青少年に対するボランティア機会の周知回数	—	12回

# 5 スポーツ・芸術文化の振興

総合戦略



まち



ひと



しごと

SDGs



## 現状と課題

町民の生活をより活気に満ちて豊かなものとするために、スポーツや芸術文化の活性化へ向けた取り組みを行っています。

スポーツ振興に関しては、町民体育祭やスポーツ・レクリエーション祭を開催し、関係団体との連携のもと、種目の見直しや開催時期の変更等の工夫により、円滑な運営とより多くの町民に参加してもらえるような事業展開を図っています。今後は、中学校部活動の地域展開に向けた取り組みの推進や、令和11年度国民スポーツ大会「高等学校野球(軟式)」の開催に向け準備を行うほか、スポーツ関係団体と連携し、スポーツへの興味・関心を持つきっかけづくりや気軽にスポーツに参加できるような取り組みが必要となります。

芸術文化に関しては、公益財団法人大泉町スポーツ文化振興事業団や関係団体と連携し、文化むら施設を中心とした鑑賞・創造・参加型の事業などに取り組んでいます。引き続き、町民ニーズを捉えた事業に取り組むとともに、文化むらなどの施設設備の更新により利便性と安全性の向上に努めていく必要があります。

## 施策の基本方針

スポーツの振興については、より多くの人々がスポーツに親しみ、楽しんでいけるよう、引き続き参加型のスポーツイベントを開催していく中で、新しい種目の導入による事業内容の充実を図るほか、各チーム等と連携した体験教室の開催など、町民がより参加しやすい事業展開を行います。さらに、中学校部活動の地域展開を推進するために関係団体等と連携を強化していきます。

また、芸術文化の振興においては、芸術文化団体の支援や活動機会の提供などを行うとともに、公益財団法人大泉町スポーツ文化振興事業団や関係団体と連携し、引き続き多様な鑑賞・創造・参加事業を実施することで、町民の芸術文化に対する関心を高め、事業参加に向け多くの機会を設けていきます。

文化むらについては、利用者の利便性や安全性を考慮しつつ、指定管理者と連携し、施設の老朽化が進む中で優先度の高い改修から計画的に実施し、利用者の快適で安全な利用環境を整備していきます。

## 主な取り組み内容

- 町民体育祭及びスポーツ・レクリエーション祭の開催
- 中学校部活動の地域展開の推進
- 公益財団法人大泉町スポーツ文化振興事業団と連携したスポーツ及び文化振興事業の開催
- スポーツ施設や文化むら施設の管理運営

## KGI（重要目標達成指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
スポーツイベントの参加者数	2,928人	3,000人
芸術文化イベントの参加者数	3,568人	3,600人

## KPI（重要業績評価指標）

	2024年度 基準値	2029年度 目標値
町民体育祭やスポーツイベント等への参加者数	2,083人	2,100人
中学校部活動地域展開への参加者数	－	505人
芸術文化事業への参加者アンケートの満足度（事業団文化振興事業アンケート）	98.1%	99.0%

## 6 文化財の保存と活用

総合戦略



まち



ひと



しごと

SDGs



8



11



17

### 現状と課題

町内にある建造物や史跡、地域の伝統芸能など、歴史上または芸術上重要なものについては、町の文化財として指定するとともに、ホームページへ掲載するほか、伝統芸能まつりや大泉かるた原画展などのイベントを通じて広く紹介しています。

平成30年度から5年間かけて埋蔵文化財の整理作業を進めてきた「仙石専光寺付近遺跡」については、作業が完了し、令和6年度に報告書を刊行するとともに出土資料を展示公開しました。

また、歴史ウォーキングでは、職員の解説付きで町内の歴史等スポットを巡ることで、認知度向上に努めており、町の歴史に関する理解促進や文化財保護への意識高揚を図っています。

歴史文化を後世に引き継いでいくため、今後も継続して文化財等の保存活用を図り、町民が興味・関心を持つように、より広く情報を発信するなど工夫が求められます。

また、歴史文化及び文化財の周知に向けたイベントについては、内容をより効果的なものとするための検討を行うとともに、伝統芸能については、後継者不足などの課題もある中、世代を超えた文化継承へ向けた認知度向上の機会の確保に努める必要があります。

### 施策の基本方針

無形文化財及び伝統芸能については、後継者不足など、各団体の抱える課題を共有し課題解決に向けた提案などを行います。

また、文化財への理解促進と学びの場の創出を目指し、伝統芸能まつりや大泉かるた原画展、歴史ウォーキングなどの既存事業を来場者の意見などを参考に内容の充実や見直しを図ることで、より多くの方が町の歴史文化に関心を持てるよう工夫をするほか、文化財所有者やその団体が行う活動に対して支援を行います。

埋蔵文化財については、記録保存に加えて展示内容の充実を図り、文化むらなどの展示施設を通じて町の歴史を分かりやすく伝える機会を増やしていきます。

### 主な取り組み内容

- 無形文化財保存団体などの課題の共有や活動機会の提供
- 町の歴史の周知及び理解促進
- 「大泉かるた」の積極的な周知・活用
- 遺跡の記録保存による埋蔵文化財資料展示の充実

## K G I（重要目標達成指標）

	2024 年度 基準値	2029 年度 目標値
文化むら展示室の見学者数	383 人	450 人

## K P I（重要業績評価指標）

	2024 年度 基準値	2029 年度 目標値
文化むら常設展示室等の展示替え実施回数	1 回	2 回
「おおいずみまちウォーキングマップ（文化財等紹介パンフレット）」の配布部数（累計）	－	2,000 部
文化財資料の貸出し等の実施件数	1 回	3 回